

生物学教育研究

東京・生物学教育研究サークル発行 No.462 2016年10月号

9月サークル例会報告

日時：9月9日（金）18：30～21：00

参加者；鷹取、小川、山崎、堀、小林、平山、小嶋

記録；小嶋妙子

＜報告内容＞

1. アースウオッチジャパンの紹介 小林順子さん
2. 夏休みに学んだこと 参加者
3. その他

資料；

1. アースウオッチジャパンの紹介
小林順子(小平市立小平第6中学校)

阿久津さんの紹介で、中学校現場の理科の先生をサークルにぜひ、ということで、小嶋が小平第6中学校の小林順子さんに、私信を送りました。

快諾された小林さんとともに、吉祥寺駅から、私(小嶋)は明星学園に到着しました。

小林さんはパワーポイントでアースウオッチジャパンの活動を紹介されました。約20分です。その後、その活動内容の質問やもっと詳しい内容の説明など、あまり知られていない世界のことを知るチャンスだったと思います。

現場の教員は、そのままボランティアの研究者の研究活動の調査のお手伝いについていけるか、その時間をどう生み出すのかは、個々のテーマや職場の実状によると考えられます。

小林さん、ぜひ、通常の生物サークルにも顔を出して、ともに授業研究ができると、うれしいです。小林さんの参加がまわりのひとたちを元気づけてくれます。

夏の科教協全国大会・静岡大会のオキノタユウ(アホウドリ)のことが思い浮かびました。アホウドリとオキノタユウが同一のトリを指すものとは、予想しませんでした。一度は無人島のオキノタユウに出会ってみたいとそんな思いにかられた全体講演の話でした。

2. 夏休みに学んだこと；

堀さん；5月の富士山の続きのような報告でした。

- ① 8/8；三島溶岩流先端部散策

静岡大会後に帰路立ち寄ってみた

富士山学習の続きです。

鮎壺の滝公園→三島溶岩

割狐塚稻荷神社→三島溶岩の溶岩塚上にこの神社が建てられている。

白滝公園→縄状溶岩、溶岩図塚、園内の溶岩下から出た湧水の流れとそれらが公園横の川に注ぐ。

楽寿園→三島溶岩

- ② 8/12から8/14；かたつむりの家を拠点に富士山周辺散策；

白糸の滝
陣馬の滝
本栖湖
西湖
山中湖
新富士溶岩の透水実験
忍野八海
石割山

それぞれの写真で説明していて、とてもわかりやすいものでした。

鷹取さん

1. 地学分科会で討議を終えて

地学教育の改革

火山や地震の学習内容

地表を覆う物質の理解と保全のために

教材の準備

2016年作成の実践記録集34集の付録DVD(第11集)の地学領域のタイトル

(1) 「富士山の湧水」

(2) 「宝永大噴火—1707年の噴火と被災—」

(3) 「隠岐諸島を訪ねて—サークルのフィールドワークから—」

他、単独に」作成したもの2編

ア. 「火山と土地のつくり—地面は何からできているか—」

イ. 「川」の概念形成に誘う。「天地返し」

試みている最中です。

「夏休みに学んだこと」鷹取さん

1. 科教協第63回全国研究大会(静岡大会)に参加して

地学分科会で「火山噴火にともなう被災、人々の復旧・復興の営み」という授業案の提案
他です。

2. 津波被災地と海岸林

「よみがえれ 千代の松原」—『みやぎの海岸林物語』の本の紹介の記事(9月号『理科教室』
読書室欄に鷹取さんが紹介した文のこと)

「みやぎの海岸林物語」の冊子は「緑の募金」の紹介で、今後継続していくとのことです。

9月26日(月) 富士山「グランドキャニオン」ミニフィールドワーク

小川 郁

体育祭の代休の日に鷹取さん、小嶋さんを誘って富士山の須走口からアザミラインで馬返しの
近くにある、通称「グランドキャニオン」に行きました。私のほんとの目的はキノコ採りだった
のですが、どうせ行くならせっかく富士山研究を始めたところだし・・・、とお二人を誘った次

第です。当日の天候は、ふもとは晴れて結構見晴らしも良かったのですが、登山道は雲の中でした。おかげで暑くもなく快適に歩くことができました。



以下、静岡大学防災センターのホームページの解説を引用します。

「富士山東裾の側火山の一つ「小富士」の東側山稜を下ったところに、いくつもの火山灰堆積層が断崖絶壁のようになって連なる、通称「富士山グランドキャニオン（和製グランドキャニオン）」があります。崖は長さ約300m、高さは平均約50mで、最も高いところでは70mを超えます。

この地層は、過去数万年分の噴火や土石流の堆積物からなり、約2900年前に起きた富士山東斜面の山体崩壊による地層もはっきりと見ることができます。それが、「雪代（ゆきしろ）」や、流水によって長い年月にわたり浸食され続けた結果、現在のような崖ができました。

ところで、「雪代」というのは富士山での独自の呼び名で、正式には「スラッシュ雪崩」といいます。富士山では11～12月や3～4月ごろの低気圧や前線の通過にともなって、激しい雨と急激な気温上昇があったときによく発生します。

雪代は、標高約2300～2500mの、ちょうど雪が雨に変わるくらいの地点で発生します。はじめは溶け出した雪と雨が混じった水分の多い雪崩ですが、流れ落ちるに従って山腹の斜面にある砂や岩石を巻き込み、土砂混じりの雪崩となります。流下する途中で雪がすべて溶けてしまうと、流動性の高い土石流となって流れ続けます。ときには山麓の集落にまで到達し、村を埋めつくしてしまうこともあるため、麓の人々は昔から雪代をおそれてきました。

富士山グランドキャニオンでは、その雪代のエネルギーの大きさを、垣間見ることができます。」

この後、ちょっとだけキノコ採りをして、5合目の東富士山荘でキノコ料理をいただき、ついでに毒キノコ鑑定もしてもらって帰りました。

